

■学校経営のポイント

子どもたちの声を聞く

喜名 朝博

こども基本法の趣旨が浸透し、教育施策の立案に当たって、当事者である子どもたちの声を聞こうという取組が進んでいる。先月の中教審・義務教育の在り方ワーキンググループでも、興味深い調査結果が報告された(右QRコード参照)。

義務教育に関する意識に係る調査

この調査の目的は、「義務教育における課題を把握し、中央教育審議会等における議論や今後の政策立案に当たっての参考とすること」である。調査対象は公立小・中学校の教師2,978人、小4～中3までの児童生徒32,720人、さらにWebモニター9,000サンプルといった大規模な調査となっている。当然ながら、学習指導要領改訂の議論でも参考にされることになるだろう。

授業の内容が難しすぎる・簡単すぎる

約3割の児童生徒が、授業の内容が難しすぎると感じている。(とてもあてはまる・少しあてはまるの合計30.5%)小学校では、5年生が最も高く29.4%。中学校では2年生が36.2%となっている。子どもたちを前にすれば、実感を伴う数字かもしれない。

逆に、授業の内容が簡単すぎると感じている児童生徒は、15.4%。小学校では、4年生が高く27.3%となっているが、28.2%の子どもたちが難しすぎると答えており、「小4の壁」を乗り越えられない子どもたちの姿が見えてくる。中学校では3年生が多く、13.1%が簡単すぎると答えている。しかし、26.8%の子どもたちは難しすぎると思っており、二極化が拡大しているようにも見える。

このデータがそのまま子どもたちの理解度と重なるわけではないが、年齢主義・履修主義の中での個別最適な学びの難しさを物語っている。

基礎的・基本的な知識・技能を身につけたい

学校生活を通じて身に付けたいことのトップは小中全体で「基礎的・基本的な知識・技能」であった(全体:72.9%、小学校:65.3%、中学校:77.2%)。同様に、学校生活を通して身に付いていると思うことも小中全体で「基礎的・基本的な知識・技能」がトップだった(全体:50.8%、小学校:46.8%、中学校:53.0%)。

注目すべきはこの数字の差である。72.9%の子どもたちが、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けたと思っているが、実際に身に付いていると思っているのは50.8%である。2割以上の子どもたちが身に付けたいのに身に付いていないと考えている。

思考力・判断力・表現力を発揮するには知識・技能が必要である。この数字の差をしっかりと受けとめ、授業改善の視点としていきたい。

しっかり教えているか

「学校で勉強する上で、こうだったらいいなと思うこと」の小中全体のトップが「わからないところをわかるまでしっかり教えてほしい」であった(全体:60.2%、小学校56.4%、中学校:62.3%)。やはり子どもたちは、分かってほしい、できるようになりたいと思っているのだ。その気持ちと意欲に応える授業をしているだろうか。しっかり教えているだろうか。子どもたち主体の授業は、教師が教えないことだと思いついていないだろうか。

1人1台端末は、そんな子どもたちの思いに応えるツールである。授業中にフォローできなければ、その子に応じた課題を端末に送って取り組ませることもできる。放課後子どもたちを残すことが難しくなったが、教師のアイデア次第で「しっかり教える」ことができるはずだ。

(きな・ともひろ=国土館大学教授/全国連合小学校長会顧問)



●校長・教頭のための学校経営手帳!《好評発売中!》

2024 スクール・マネジメント・ノート

教育開発研究所【編集】 A5 変形判/定価 2,750 円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

